

(1)

# おい図書館

## No.123

発行おい図書館  
 代表 青木和子  
 松本市牧原1-104-416  
 TEL 047-311-0886

### 図書館問題研究会

(略称：図問研)

報告 青木和子

7月8日(日)~10日(火)、大阪市で第54回全国大会が開かれました。8日は、全体会の後、シンポジウム「図書館の明日を紡ぐ」とパネルディスカッション。

パネリストは、西村一夫氏(松原市民図書館長、大阪公共図書館協会会長)、山口明子氏(寝屋川市の情報公開をすすめる会)、阿曾千代子氏(図書館友の会全国連絡会事務局長)、コーデンネータ(協谷邦子氏(図問研大阪支部事務局長))。

西村氏は、1970年(昭和45年)の「雨の日在庫」の発足に始まり、図書館全域サービスを目標として市民と共に活動してきた松原市民図書館の歩みを話されました。「何が問題が起きた時は、市民の図書館という基本に戻るべきだ」と。

山口氏は、寝屋川市への情報開示請求で判った事例ー市民の反対運動(パブリックコメント)での反対意見表明や反対請願(署名)にもかかわらず実施された、市立東図書館の運営業務委託についての監査請求の経過を報告されました。「一旦委託してしまおうと、委託そのものが目的化してしまって、例え委託契

約書(仕様書)に問題がある場合でも、きちんと精査されない」と。阿曾氏は、2004年4月の会発足以来、図書館の振興と発展を願う全国の仲間と共に続けてきた活動の報告をされました。

8月9日は、分科会

① 法律が変わったから図書館も変わるのか?ー教育法制の中の図書館運営

② 指定管理者制度 選ぶ理由・選ばない理由・その2

③ 政策・評価・協力ー図書館への市民参画

④ 都道府県立図書館と市町村立図書館とのよりよい連携のために

⑤ つなげよう ことば・本・大人

⑥ 全体的人に図書館サービスを

⑦ 図書館の危機管理・図書館の自由

⑧ 非正規職員として図書館で働くということ

⑨ 第一分科会に参加しました。  
「図書館の原則」を話し合う分

科会と位置づけ、午前は、山口源治郎氏（東京学芸大教授）の講演「教育基本法改正」と図書館の今後」と、大塚敏高氏（神奈川県立川崎図書館）の「原則を実践し続けることとその可能性」相互貸借経費の利用者負担をめぐって、細井正人氏（羽曳野市役所）の「図書館の無料原則を守る」図書館の原則をめぐる状況」と題する報告でした。

午後はそれを受けて、各参加者からの実践報告・問題提起・意見交換を行いました。

山口源治郎氏

「教育基本法改正」と図書館の今後」

要旨

99年の敗戦後、戦争と戦前体制（明治憲法・教育勅諭・軍人勅諭など）への批判から、日本国憲法（教育基本法に示される戦後の価値へ平和・人権・民主主義）と、そ

れを裏現する体制（戦後レジーム）を国是としてきた。

- ・ 準憲法ともいえる「47年教育基本法」の前文「われらは、さきに、日本国憲法を策定し……（略）この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである……（略）」
- ・ 「社会教育法」の基本理念「社会教育の自由の確保」
- ・ 「図書館法」の「7つの理念（特に公共図書館において）」
- ① 図書館奉仕の理念（権利としての図書館）
- ② 専門的職員（司書・司書補）の配置・養成
- ③ 無料制（税金から負担）
- ④ 地方自治と住民自治（自治事務としての図書館行政・サービス、図書館協議会制度）
- ⑤ 国と地方自治体の条件整備の責務
- ⑥ 私立図書館への不干渉（ノ

「サボート・ノーコントロールの原則」

⑦ 教育機関としての位置づけと図書館の自律性

・ 国立国会図書館は、憲法理念を裏現するという強い理念をもち、政治機関としてつくられた。「国立国会図書館法」の前文「国立国会図書館は、真理がわれらに自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される、

しかし、最近の世の中の動きをみると、90年代からの「構造改革」や新自由主義（市場原理・競争原理社会）・新国家主義（軍事大国化）への傾斜、更に「戦後レジームからの脱却」を掲げる首相の登場もあり、戦後の価値の実現を目指す重要法が相次いで「改正」されている。

教育基本法「改正」で図書館の

今後はどうなる？

図書館を擁護する市民の動きは、  
静岡・箕面・豊中・堺などの指定  
管理者制度導入阻止運動にも見ら  
れる。その動きが、図書館の自由・  
司書職制度の確保・無料制の原則  
など、図書館の本質を問う運動へ  
と発展してほしい。

「アメリカ社会に役立つ図書館  
の12ヶ条」より

・図書館は社会の壁を打ち破り  
ます

・図書館は社会的不公平を改め  
るための地ならしをします。

(「図書館のめざすもの」竹内忠<sup>チカ</sup>氏)

※9日夜は、テーマ別交流会

①地酒を飲んで図書館を語り明かそう

②大阪の昔話・大阪弁で話しもう

③行事に役立つ工作ネタ

④図書館9条の会

⑤何でも聞いて！指定管理者制度

⑥多文化サービス

⑦問研の組織

※10日は、しめくくりの全体会

各分科会報告・次期開催地

提案(神奈川)・新役員選出が  
行われ、閉会となりました。

午後には、希望者のみ、大阪府

立中え島図書館見学。

1904年(明治37年)、住友家か

らの寄贈で「大阪図書館」とし

て開館。建物は国の重要文化財

に指定され、ギリシア神殿を思

わせる正面玄関(現在は閉鎖)。

ドーム状の中央ホールや階段な

ど、多くの見どころがあります。

大阪府立図書館は、総合図書

館としての中央図書館と、大阪

に関する資料や和書・漢籍・韓

本等の古典籍、ビジネス関係資

料を提供する中え島図書館の2

館があり、連携してサービスを

行っています。

素晴らしい外観である反面、100

年前の建物は使いづらいのではな

いかと感じました。

100年前の商品案内や古書籍の展

示など興味深く見る一方、ビジネ

ス関連資料やその案内のための資

料の豊富さには驚かされました。

インターネットやデータベースも

利用でき(無料)、デジタル情報

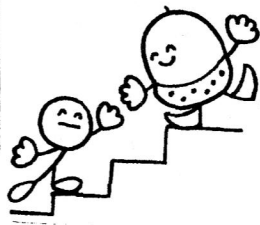
室や自習室は調べものをする人達

でいっぱいでした。

ビジネス支援に特化したような

図書館の見学は初めてだったので、

新鮮な驚きの連続でした。



東近江市立図書館見学記

問研で大阪まで行くのだから、  
この際是非とも滋賀県の図書館を

見学したいと思ひ、永源寺図書館長の巽照子さんに前もってご相談したところ、心良くご案内頂けることになりました。図問研の翌日（不）総勢3名で、東近江市内の永源寺・湖東・八日市・能登川の4館を案内して頂きました。

先ずは、有名な紅葉の名所ですが、シーズンオフなのでとても静かな、緑したたる永源寺に参詣した後、見学ツアーに出発しました。

◎永源寺図書館は、2年前の図問研（高崎）で巽さんのお話を伺って以来、いつかは訪れたいと思っていた図書館です。

一昨年の合併で東近江市となりましたが、永源寺町立図書館として2000年10月開館。当時の人口6600人、年間予算30億円の町が、町民と共働して図書館づくりに取り組みました。

延床面積約150㎡、敷地面積約6000

㎡の平屋建て。蔵書は、おとなの本（子どもの知識の本混配）4万5千冊、子どもの本（おものがたり・絵本）1万5千冊、開架書庫2万冊、閉架書庫2万冊。移動図書館車は、5コース23ポイントをそれぞれ月一回廻っています。永源寺地区の図書館利用カード登録率は65%です。

建物の正面玄関脇は「子供の庭」で、館内の子どもの本コーナーからも出られる遊び場です。玄関を入るとギャラリー。奥

は新聞・雑誌コーナーで、書架は見えます。ギャラリーの右側を見ると開架室。調べものコーナー・開架書庫なども全てワンフロアです。興味を引く楽しい展示がそこここにあり、気持ちや和みます。カウンターは、右奥の全体を見渡せる場所にあります。

子どもの本コーナーに表紙を

見せて並んでいる本達は、手にとってみたい気分にはさせてくれます。その一角には、おはなし会や絵本の読み合い・紙芝居のための「トロロのへや」。

ギャラリーを隔てた反対側には、ホールと和室が並んでいます。和室は小さな会合や茶室としても使われ、巽館長自ら、子ども達にお茶の稽古もされるそうです。

グラウンドピアノを備えたホールでは、高橋邦典写真展「ぼくの見た戦争―2003年イラク」を開催中でした。

近代的システムを備えた大まな図書館ではありませんが、「読みたい、知りたい気持ちを励まし、読みたくなるような、知りたくなるような潜在的な願いを叶えられる環境作り、本の森づくりを常に楽しく工夫して行かねばならない。ほっとして、ほっこりする場所でありたい。子どもたちが本の森を

上手に歩く力をつけ、一冊の本から自在にひろがる世界を旅する喜びを味わってほしい。」と言われる。館長をはじめ、職員の方々の思いが「ほっこり」と伝わってくる。素敵な図書館でした。

◎湖東図書館は、島根県斐川町と同じく藤原孝一さんの設計によるので、行ってみたいと思っていた図書館です。

1993年開館。延床面積約180㎡、敷地面積約720㎡の平屋建て。所蔵資料は約5万7千冊、書庫に約3万2千冊。移動図書館サービスもあります。

立ち寄って一回りしただけですが、「木造日本一」というキャッチフレーズにたがわず、館内には細やかな心配りが感じられます。椅子はどれもとても座り心地が良く、暖炉の前で読書を楽しむような雰囲気を醸し出しています。

興味深かったのは、西堀栄三郎記念の探検家コーナーです。毎日でも訪れたい、何時間居ても飽きさせない気分になさしてくれる図書館でした。

◎3館目は八日市図書館です。

1985年7月開館。延床面積約2300㎡、敷地面積約700㎡(市立保健センターと同一敷地)の鉄筋コンクリート2階建て(一部3階)。蔵書は、一般書約22万冊、児童書約9万3千冊。移動図書館車は、27ステーションを3週間に一度廻っています。

建物自体は20年以上経っているのに新しいとはいえませんが、資料の豊富さ、品揃えの良さ、そして地域の情報をとても大切にしていく姿勢を感じました。

1995年、八日市市制30周年と図書館開館10周年を記念して、環境関連の資料コーナー・ギャラ

リー・コーヒーコーナーと本のリサイクルショップ「ぶつくる」で構成される「風樹木」が2階部分にオープン。市民グループ「人と自然を考える会」によって運営され、「ぶつくる」の収益は環境関連資料の充実等にあてるとのことです。

また、街づくり情報紙「枝川」を年一回発行。詩人の岡部伊都子さん・姫田忠義さんへ記録映画「越後奥三面」監督・写真家長倉洋海さん等の特集を取り上げたり、各号共、大変魅力的で充実した内容です。

隅々まで職員の方達の心意気が感じられ、落ち着いた風格のある図書館でした。

◎しめくくりは能登川図書館。

「自殺したくなったら図書館へ行こう」へ「世界」2005年8月号の記事を読んで以来の憧れの図書



館です。

1997年11月、能登川町立図書館・博物館・埋蔵文化財センターの複合施設「能登川町総合文化情報センター」として開館。延床面積約5800㎡（図書館約2100㎡、博物館約1000㎡、共用部約900㎡、埋蔵文化財センター約1800㎡）、敷地面積約2万3千㎡の鉄筋コンクリート造り及び鉄骨鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造り、平屋建て。

所蔵資料は約15万冊、雑誌220タイトル、新聞は紙。移動図書館車は11ステーションを約30日間隔で廻っています。

館内の様子は、能登川図書館に

ついて書かれた、毎日新聞のコラム

「余録」(2005年6月6日)から引用します。

「館内は天井が高く、そこには何枚ものタペストリーが雲のようにたなびき、ゆったりと風が流れているようだ。昼のへやがあり、お茶も飲める。書架の間にあ

るイスに座ると、他者の視線が消え、居心地がいい。公共の間だが、誰もか独りになれる「居場所」がある。」

当時の館長才津原哲弘さんの言葉「死角が多く、あえて目が届かないところが多いように設計している」「図書館は、よりによく考え、生きるための場です。行き場のない人、ケンカしても穏れる場所がない人たちを孤立させず、自殺させない、それも図書館の役割です。」  
実際に自分の目で見て、歩いてみて、それが実感としてわかる気がしました。

「総合文化情報センター」として博物館とも併設なので、収蔵庫も見せて頂きました。

持ち物は外に置いて、何重ものチェックを経て入った庫内は、温度・湿度が管理され、寒いは

どでした。

昔の地図や道具類など、地域ならではの物が多々ある中で、ひときわ興味を引いたのは「桶風呂」です。蓋をした桶の底に水を少し入れ、下から火を焚いて、サウナのように入るのだそうです。

「所変われば品変わる」と言いますが、「日本も広い」とつくづく思いました。

一日に4館もの図書館を見学するのは、私のような図書館の素人にとって、頭が混乱しそうなことでした。しかし、たくさんの方の素晴らしい図書館を実際に見学できたことは本当に嬉しく、何よりの宝物を頂いたような、しあわせなひと時を過ごすことができました。栗さん、職員の方々、本当にありがとうございました。

